

# グローブ文芸朗読会 2013

## A Christmas Carol

# クリスマス・キャロル

チャールズ・ディケンズ作

6人の読み手たちが、音楽にのせて語りかける  
ディケンズの名作の世界



女鹿 伸樹



菊地 真之



北村 青子



春口 ゆめ



加藤 道子



萩 英治



大政 直人



武田 桃子

朗読台本・演出：萩英治

出演：女鹿伸樹、菊地真之、北村青子、春口ゆめ、加藤道子、萩英治

音楽：大政直人（日本作曲家協会理事） ヴァイオリン演奏：武田桃子

舞台監督：井関景太 照明：内山洋子 音響：稲岡宏哉

杉並公会堂（小ホール） TEL 03-3220-0401

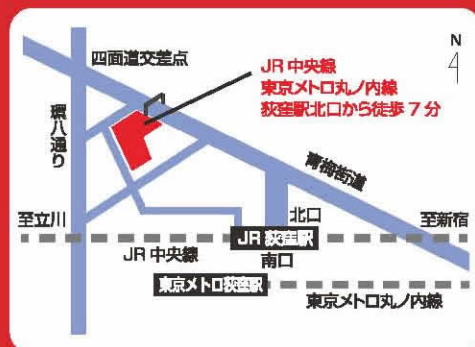
12/24 19:00開演 火  
・ 25 14:00開演 水

大人 3,000円（当日 3,500円） 学生 2,000円（当日 2,500円）

チケット予約  
お問い合わせ

グローブ文芸朗読会

TEL / FAX 042-256-0181  
E-Mail : globe-bungei@live.jp



公演 WEB 情報

「facebook グローブ文芸」で検索！

■ 主催：グローブ文芸朗読会 ■ 後援：ディケンズフェロースHIP日本支部  
■ 協力：コネクト株式会社／鑑賞企画オフィスミキ／（株）大沢事務所／グルー／かがみ屋／るうと工房

# クリスマス・キャロル A Christmas Carol

## ( クリスマスって何のために祝うの? )

毎年好評をいただいている6人の読み手とヴァイオリン演奏による朗読劇『クリスマス・キャロル』  
今年は新たな読み手と新しい音楽が加わり、いっそう楽しくご覧いただけます

### 朗読劇『クリスマス・キャロル』について

『クリスマス・キャロル』は、昨年生誕200年を迎えた英国の作家チャールズ・ディケンズによって書かれたベストセラー小説です。グローブ文芸朗読会では、これを2008年に台本化し、6人の俳優によって登場人物を演じながら物語を読み進める朗読劇にしました。さらに2009年より、これにオリジナル音楽が加わり、ヴァイオリンの生演奏によって物語の世界がイメージ豊かに繋がれていきます。

世界的に有名なこの作品は、一般的には子供向けの“おとぎ話”あるいは単純な“勧善懲悪物語”と思われるがちですが、実は作家ディケンズの深い人間洞察に基づいて書かれた感動的な名作であります。俳優たちの練達の演技・朗読と、快いヴァイオリンの響きを楽しみながら、毎年家族や恋人、友人や仕事仲間とクリスマスを祝う事の意義を明らかにする『クリスマス・キャロル』という作品の真価にふれてください。(演出：部 英治)



クリスマス・キャロル初版本より  
挿絵：マーリーの亡霊

### 《あらすじ》

クリスマス前夜、“ケチで冷酷で人間嫌い”の商人スクルージのもとに、かつての共同経営者マーリーの亡霊が現れ、今の生き方を変えるようにと強く勧め、『3人の精霊がスクルージを訪れる』と伝える。マーリーの言葉通りに彼の前に現れた“過去”・“現在”・“未来”の3人の精霊に導かれ、スクルージは自らの人生のさまざまなシーンをありありと目撃する。孤独で悲惨な自分自身の過去、現在、未来の姿、それとは反対に貧しくも心清らかな人々がクリスマスを祝うあり様に、次第に心を動かされてゆく。

### 《チャールズ・ディケンズ》

Charles Dickens [1812-1870]  
イギリスのヴィクトリア朝を代表する作家。親が借金を抱え、ロンドンのスラム街で少年時代を過ごし、法律事務所の使い走り、速記者などをしながら大英博物館に通って勉強し、新聞記者になる。貧者・弱者の視線で社会を凝視した作品を次々に発表し、また、ディケンズ自らイギリス・アメリカ各地で朗読公演を行うなど、当時の人々に歓迎された。『クリスマス・キャロル』をはじめ、『オリバー・ツイスト』『大いなる遺産』『二都物語』などの代表作は、数多く映画化されるなど、今なお世界中の人々に愛され、支持されている。2012年はディケンズ生誕200年にあたり、数々のイベントが催された。

### 『クリスマス・キャロル』の音楽について

クリスマス・キャロルの音楽を担当して欲しい、という依頼を受けた時、私は即座に引き受けさせて頂きました。それというも私の2人の娘がまだ小さかった頃「ミッキーのクリスマス・キャロル」というビデオを何回も見ていて、そのストーリーが完璧に頭に入っていたからです。そしてこの話が大好きだったものだからこれはもう「私に与えられた運命である！」と勝手に思い込み、作曲を始めました。しかしビデオと違ってこれは朗読劇ですから、いたる所に音楽が入って朗読の流れを止めてはいけません。かと言って作曲家としては「う～ん、なかなか良い音楽だ」とほめてもらいたい(ほめられて育つ性格のようです)という事で結局はいつも通り苦難の末に生まれたのがこの音楽です。どうぞヴァイオリンのパフォーマンスをお楽しみ下さい。

(音楽：大政直人)



### 『クリスマス・キャロル』公演に寄せられた感想

ひとり芝居での『クリスマス・キャロル』は観たことがありましたが、複数での語り、それも次々と音声交替していく演出はとて素晴らしいものでした。また、生ヴァイオリンもよかったです。聴く力と想像力が失われつつある昨今、より多くの人に聴く機会がありますように・・・女性(40代、世田谷区)

『クリスマス・キャロル』という言葉は昔から知っていましたが、ストーリーは今回初めて知りました。間に音楽も入り、楽しめました。女性(40代、世田谷区)

初めての朗読会でしたが、物語に引き込まれるようで非常に楽しめました。もっと多くの方がこういった機会に触れることができるように頑張ってくださいと思います。ありがとうございました。男性(20代、文京区)

朗読の公演を聴く機会があまりないので、貴重な体験でした。できれば市報などで広く知らしめてほしいものです。男性(60代、調布市)

(2011年 調布公演アンケートから)